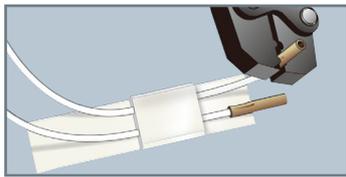
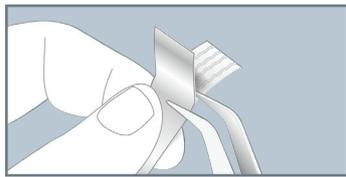


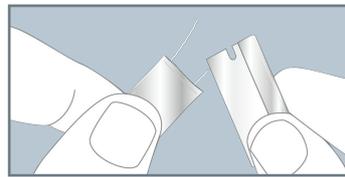
リード線とヒーターのターミナルブロックを使用した接続方法



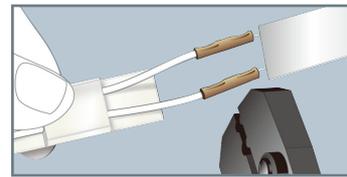
①ターミナルブロックにリード線を通します。
リード線の被覆をはがし、圧着スリーブを取付けます。



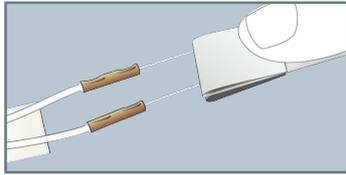
②ピンセットでヒーターテープを少しはがします。



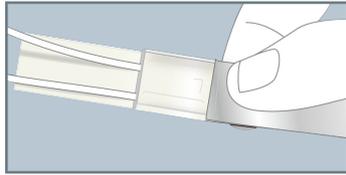
③ヒーター線を残して、ヒーターテープを切ります。
その場合ヒーター線を出させ、ヒーター線よりエナメル被覆を削り取ります。



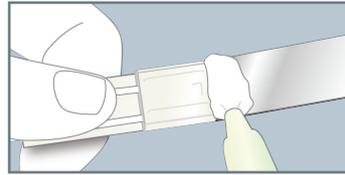
④リード線とヒーター線をカシメます。
ヒーター線が壊れる恐れがあるため、過度なカシメにはご注意ください。



⑤ヒーターテープをリード部の端から約 25mm はがします。
ターミナルブロックを、コネクタのカシメ部分が入るまで押し込みます。



⑥ヒーターテープをターミナルブロックに押し付け、貼り付けます。



⑦必要に応じて、シリコン樹脂等を充填しても構いません。

●標準仕様表

テープ幅 : 6.35mm 厚さ : 0.63mm ※1巻 : 15m 単位

品番	結線		1mあたりの最大容量 (W/m)	商品コード
	パラレル (Ω/m)	シリーズ (Ω/m)		
A-16	3	12	130	CRA162
B-16	5	20	130	CRB162
C-16	6	24	115	CRC162
D-16	8	32	95	CRD162
E-16	11	44	130	CRE162
F-16	14	56	115	CRF162
G-16	18	72	95	CRG162
H-16	21	84	95	CRH162
J-16	35	140	65	CRJ162
K-16	45	180	50	CRK162

※別売品

品番	内径 (Φ)	外径 (Φ)	商品コード
ターミナルブロック L	1.6	3.4	CRTL

●並列・直列の抵抗値

(例) 品番 A-16

パラレル(並列)

$$\begin{array}{c} \text{6}\Omega \\ \text{6}\Omega \end{array} \parallel = \frac{1}{\frac{1}{6} + \frac{1}{6}} = 3\Omega$$

シリーズ(直列)

$$\text{6}\Omega + \text{6}\Omega = 12\Omega$$



◀ターミナルブロック

●ヒーターの選択方法

- 被加熱物の要求温度の容量 (W) を計算します。(ヒーターの結線方法をパラレルまたはシリーズのどちらにするかを検討します)
- 被加熱物を均一に加熱するための長さを決めます。
- テープ 1m あたりの抵抗値の計算式

$$\frac{(\text{電圧})^2}{\text{①の計算値(W)} \times \text{②の長さ(m)}}$$
- テープ 1m あたりの容量の計算式

$$\frac{\text{①の計算値(W)}}{\text{②の長さ(m)}}$$
- 標準仕様表を確認し、③で計算した値よりも大きい Ω/m 値のヒーターを選択してください。
- 標準仕様表を確認し、④で計算した値よりも大きい W/m 値のヒーターを選択してください。

●選択例(左記の選択方法に沿って行います)

- ①②を決定します。
シリーズ結線、必要容量 300W、必要ヒーター長 3m、電圧 100V
- ③ $\frac{(\text{電圧})^2}{\text{容量} \times \text{長さ}} = \frac{(100)^2}{300 \times 3} = \underline{\underline{11.11(\Omega/m)}}$
- ④ $\frac{\text{容量}}{\text{長さ}} = \frac{300}{3} = \underline{\underline{100(W/m)}}$
- ⑤ 標準仕様表の「シリーズ Ω/m」の値を確認し、③の計算値 (11.11) より大きい数値のヒーターを選択してください。
(この場合、品番 A-16 ~ K-16 すべて選択できます)
- ⑥ 標準仕様表の「最大 W/m」の値を確認し、④の計算値 (100) より大きい数値のヒーターを選択してください。
(この場合、品番 A-16、B-16、C-16、E-16、F-16 が選択できます)
- ⑦ ⑤⑥で共通の品番が、使用できるヒーターです。
(この場合、品番 A-16、B-16、C-16、E-16、F-16 が選択できます)